

## 2.2 治水事業の経緯

### (1) 主な治水事業

庄司川の改修状況は、堤防や護岸等が概ね整備され、平成6年3月に庄司川排水機場が完成したものの、平成15年7月出水や平成21年7月出水において、河積不足による河川水位上昇や堤防高不足箇所において浸水被害を受けた。

庄司川の改修方針は、整備計画の目標流量を安全に流下させることができない区間において、築堤、河床掘削、河道拡幅による河川改修を実施している。

また、河道改修を行う際には、現在の生物の生息・生育状況の調査結果をもとに、希少な動植物の生息・生育・繁殖環境への配慮を行うなど、生物多様性の保全と再生につながるよう、必要に応じて学識経験者に意見をうかがい、可能な限り、みお筋の確保など環境に配慮した工法・形状を選定している。



下流区間



津島橋より下流

図 2.2.1 庄司川現況写真

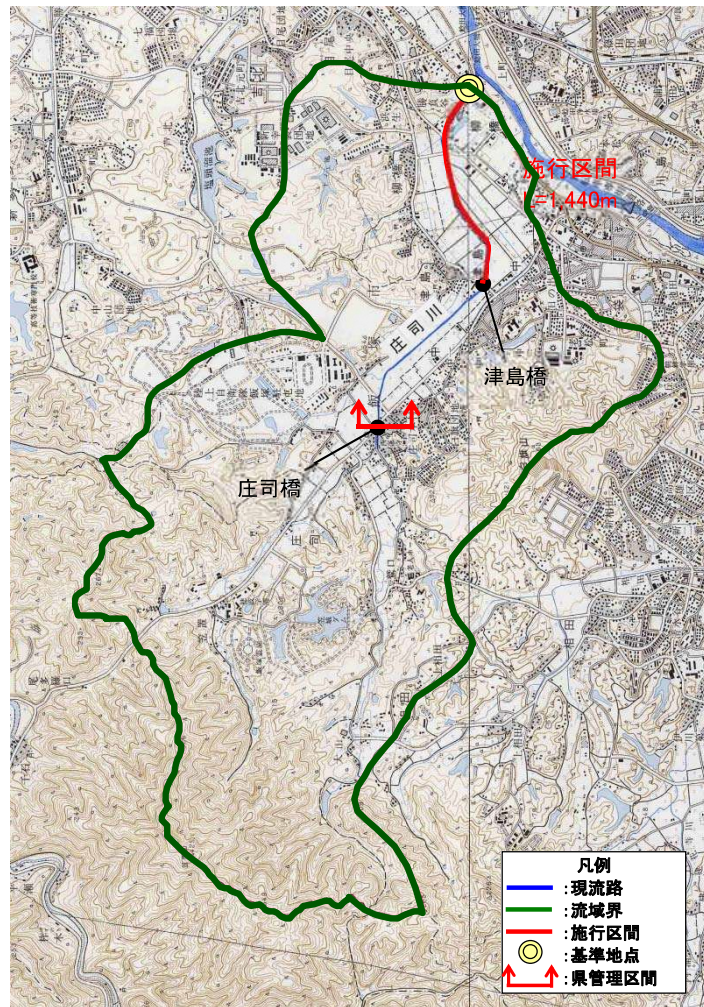


図 2.2.2 庄司川河川整備計画の施行の場所

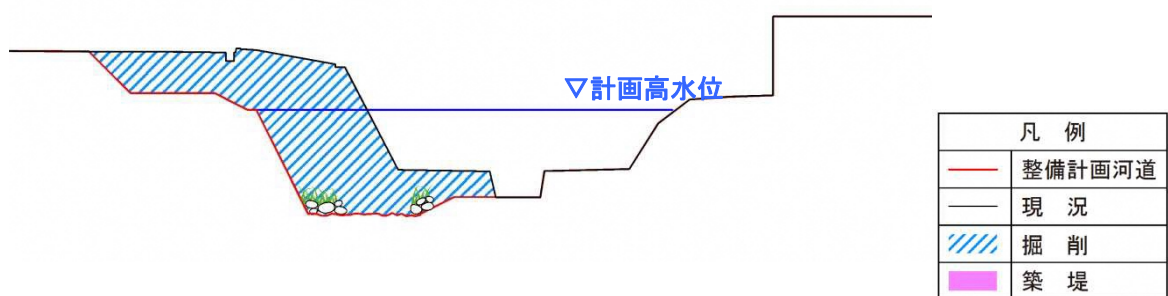


図 2.2.3 庄司川河川整備計画代表横断図（下流区間）

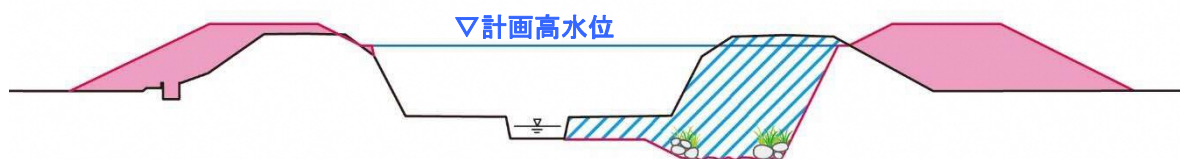


図 2.2.4 庄司川河川整備計画代表横断図（津島橋下流）



## (2) 遠賀川水系河川整備計画における庄司川流域の内水氾濫への対応

平成19年4月に策定された遠賀川水系河川整備計画における内水氾濫への対策等については、以下のとおり記載されている。

遠賀川水系河川整備計画 平成19年4月 P60抜粋
洪水の発生に伴い、内水により床上浸水が頻発することが予測される <sup>がくとう こもだ</sup> 学頭、菰田、直方地区等において内水対策等を実施します。実施にあたっては、過去の被害実績や浸水特性、土地利用状況等を踏まえ、関係機関と連携して検討・対応していきます。

## (3) 浸水被害後の対応

平成30年7月豪雨を踏まえ、関係機関の緊密な連携のもとで実効性のある浸水対策について協議することを目的に国、県、関係市町村で構成する「平成30年7月豪雨浸水対策連絡協議会」を設置している。効果的、効率的な浸水対策やその役割分担について、継続的に協議を行っている。

令和元年度の出水期に向けては、国土交通省が遠賀川本川の河道掘削及び樹木伐採、福岡県が庄司川の樹木伐採等及び危機管理型水位計の設置、飯塚市が庄司川の浚渫及び農業用水路の浚渫を行っている。

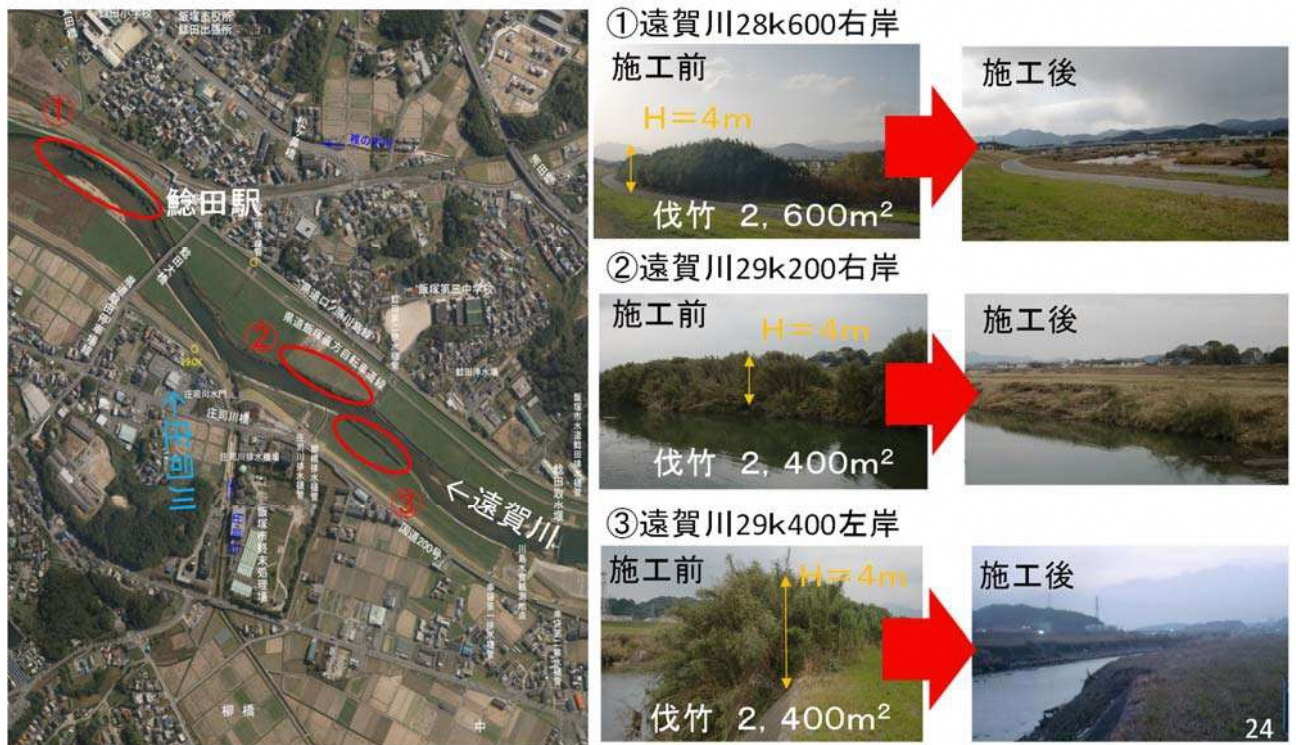


図 2.2.5 国土交通省が実施した当面の対策（遠賀川本川の樹木伐採）



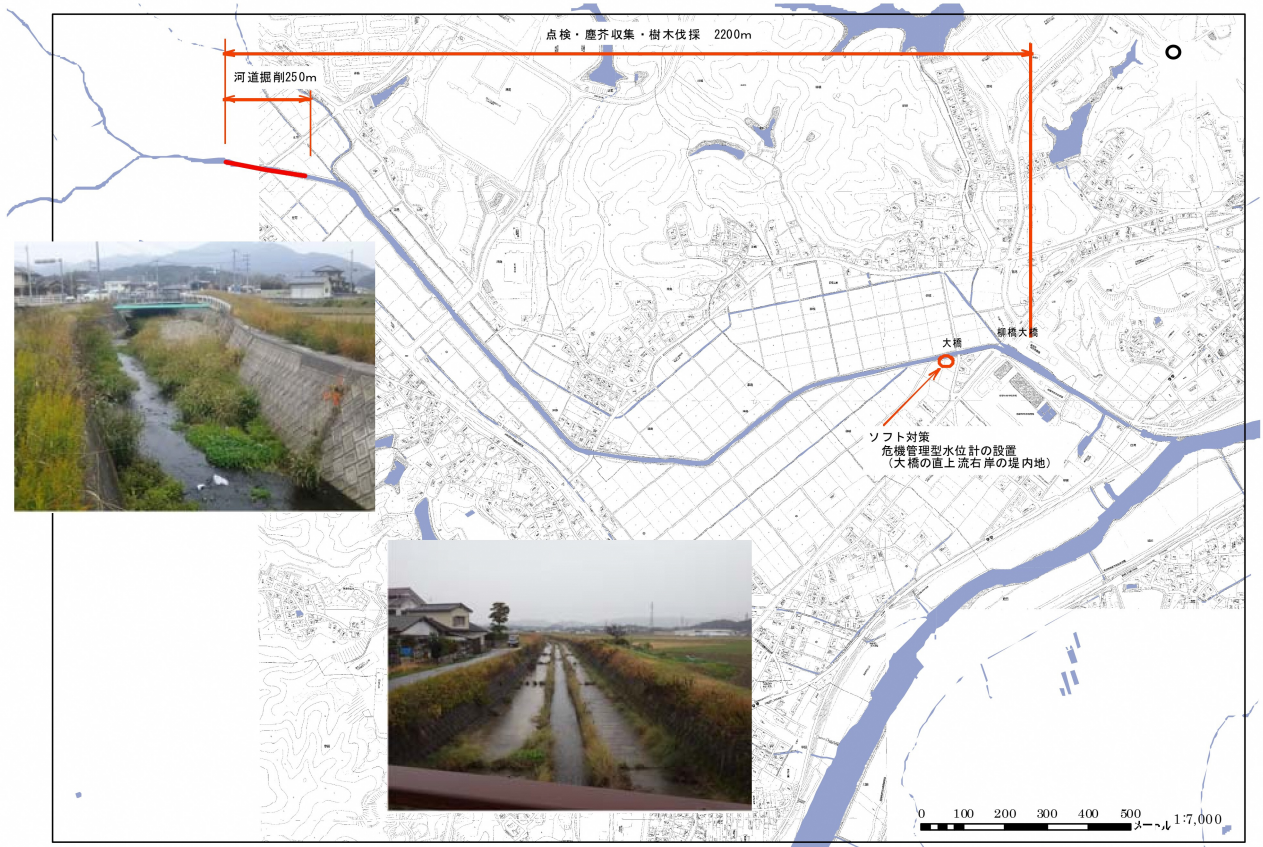


図 2.2.6 福岡県が実施した当面の対策（庄司川の樹木伐採等、危険管理型水位計の設置）



図 2.2.7 飯塚市が実施した当面の対策（庄司川の浚渫）